宇都宮大学
教育学部

同窓会会報

NO.127
令和元年8月30日
発行人　増渕茂泰
宇都宮市峰町350
宇都宮大学教育学部同窓会事務局
電話・FAX　028－635－0853
（有）正栄社印刷所

海外英語研修への取組み

― 教育学部のグローバル化対応推進に向けて ―

小学校英語教育が来年度本格実施を迎え、今年度より教育学部生全員が小学校教科「英語」と「初等英語科教育法」を学びます。もとより本学部では積極的な対応を先駆けて進めてきたところですが、グローバル化や多文化共生社会、SDGs（持続可能な開発目標）などへの関心ともあいまって、教員養成における外国語（英語）・異文化理解教育の意義と必要性は否応なしにますます高まっています。

今般の共同教育課程構想では「グローバル教育」を本学部の特色・強みとして掲げ、先んじて「海外英語研修」による英語力強化や異文化理解教育の推進に力を入れています。去る2月には、マレーシア・サラワク大学での2週間にわたる英語研修に様々な教科分野から10名の教育学部生が参加し、多文化社会で英語を公用語の一つとして使うことの意義を体感しつつ、現地学生とともに社会的な課題について英語で学び考える貴重な機会を得ました。地元の小学校で英語による授業の見学や学習補助、子どもとの交流なども経験し、今年度からはその小学校での「国際インターンシップ」も始まります。教育学部ではこれらの研修・インターンシップを「Forefront科目」として位置づけ、グローバル化への対応を一層推進することを構想しています。

人文社会系　英語分野教授　天沼　実

目次

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ …2
同窓会から学生への支援……3
懐かしい学生の頃……4
現場からの声……5
今に生きる……6・7
大学生活奮闘中……8
宇都宮大学教育学部同窓会について……9
定期総会の概況……10・11
ホームカミングデー……12
編集後記……12

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ

ご挨拶

宇都宮大学教育学部同窓会会長
増渕茂泰

令和元年度、第130回定期総会が無事、終了いたしました。遠方より、各支部長さんをはじめ多くの会員の皆様のご参加をいただき大変ありがとうございました。

年号も変わり、新制大学発足70年目の大きな節目の年を迎え、身の引き締まる思いがいたします。引き継ぎをして以来、１年が過ぎ、一サイクルの経験を積ませていただきましたがやっと職務を理解できた状況にあります。各支部の特徴ある活動に支えられ、活発な同窓会事業（就職セミナー、就職支援室）が展開されており、平成30年度の就職率アップの実績に貢献できました。教師を目指す後輩の夢の実現にはこれらの活動をさらに活発にする必要があり、そのカギを握るのが私たち先輩の会員数です。まだまだ工夫が必要ですが、現役世代が役員を務め、多くの会員がエネルギッシュな支部活動を展開している様子などもうかがっております。

ところで、入学説明会の折には学生、保護者に全員加入を目指している旨を伝えてあります。さらに今年度からは全員参加の新入生歓迎会を実施して、同窓会活動の趣旨と活動状況を伝達いたしました。

今年度は70周年記念行事の一環としてのホームカミングデーも計画されておりますので参加されて、思い思いに思峰会（峰が丘を思う会）などを立ち上げて顔を合わせる機会にしてはいかがでしょうか。

そして、教師としての天性を持ち合わせた先輩の私たちと大学の先生方共々、セミナー・支援室を充実させて、学生の天性も発揮できるよう本気になって事業充実に努めましょう。

ご挨拶

宇都宮大学教育学部学部長
黒後　洋

４月より教育学部長を拝命致しました黒後と申します。教育学部同窓会の皆様におかれましては、日頃より厚いご支援を賜り大変有難うございます。平成30年度の就職状況は、採用試験の合格率では過去最高を記録し、教員就職率では64％と全国トップクラスを狙える位置まで向上致しました。就職支援室を始め、教員採用試験セミナー等を中心にご支援頂きました同窓会の先生方に心より感謝申し上げます。今後も、採用試験の合格率・教員就職率の向上に関する取り組みを充実させ、教員志向の向上を目指して参ります。

現在、宇都宮大学教育学部では、令和２年４月の共同教育学部設置に向けて、栃木県内を始め多数の高校を訪問させて頂き、新しい入試方法や教務内容に関して丁寧にご説明をさせて頂いております。また、群馬大学との双方向遠隔メディアシステムを利用した授業は、この共同教育学部の核であり、各教員がその準備に真摯に取り組んでおります。共同教育学部の創設は、将来にわたり本学部が責任をもって栃木県の教員養成を担うための改革であり、文科省からも「国立の教員養成大学・学部等の特色ある好事例や先進的な取り組み」として取り上げられております。今後も周到な準備を進め、学外者からのご意見等も伺いながら、慎重に取り組む所存でございます。同窓会の皆様におかれましても、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「Roses」美術分野　髙橋 里菜

同窓会から学生への支援

教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援

子どもに寄り添える教師に

就職セミナー指導員　**高 梨 敏 朗**

集団面接・集団討論・個人面接のセミナーを担当して３年目を迎えます。県で教員採用を担当した経験を生かし、教員を目指す学生の皆さんの思いを実現するために、微力ながら尽力しているところです。

面接のセミナーでは、皆さんが就職支援室で真摯に積み重ねてきた練習の成果を、肌で感じています。

面接や討論では、誠実さや柔軟な対応力、そして豊かな表情等が求められますが、自己の資質能力を十分に発揮するためには、普段から場数を踏んで慣れることも大切な要素となります。

また、子どものよさを認められる力となる「多様性をもった思考力」は、教員として重要な資質となります。

自らが目指す教師像の実現に向けて研鑽を積み、個々の児童生徒に寄り添える教師となることを期待しています。

自信を持たせてくれる就職支援室

教育学部 英語教育専攻卒

兼 川 汐 里

教師になりたいという夢を叶えることができたのは、あたたかい笑顔で迎えてくれて、信頼できる支援室の先生方がおられたからです。

教員採用試験の対策で、何から手をつけてよいのかわからず、支援室へ行きました。勉強法から小論文添削、集団・個人面接指導、体育などの実技指導など、試験対策を一から教えていただきました。私は面接試験がとても不安で、支援室で設定されている時間以外にも、個人的に面接練習を何度もお願いし、時間を作っていただきました。先生方の手厚いご指導のおかげで、私は自信をもって試験に臨むことができました。

教員採用試験を受けるみなさん、自信が持てないことが１つでもあるなら、ぜひ支援室へ行ってみてください。夢を叶えるために、支援室の先生方がたくさん力を貸してくださいますよ。

教職は魅力いっぱい！先生になろう!!

就職支援室指導員　**渡 邊 昌 子**

大学卒業、あれから40年。教育学部１階にあった国語科控室と社会科控室が、現在は就職支援室及び教採セミナースタジオになっていました。

支援室には教師を目指す学生が、採用試験の過去問題集や参考書、教育雑誌、先輩からのアドバイスなど様々な情報を求めて連日来室します。また、集団面接や個人面接や集団討論の練習、論作文の添削、進路の悩みや人生相談も。昨年度はのべ3,886人の利用がありました。学生から信頼される支援室を目指しています。

教育と言う仕事に完成はなく、情熱が次の仕事を呼び…。教師が多忙なのは事実ですが、それは教職が魅力的すぎるからなど、経験を生かしながら大沢智恵子先生と共に仕事の『やりがい』を伝え、教師になる夢を応援しています。

今年も多くの教師が宇大から巣立ちますように。

支えられた学生生活

教育学部 数学教育専攻卒

倭 文 大 成

私は今年度から、宇都宮市内の中学校の数学の教員となりました。子どもたちと触れ合いながら、毎日充実した生活を送っております。初年度から、このような教員生活が送れるのは、同窓会からの学生支援があったからに違いありません。

私は昨年度、週に３回程度就職支援室を利用させていただきました。教員採用試験の対策のセミナーはもちろんですが、それ以外にも先輩方のお話や実際に現場に立っていた就職支援室の先生方のお話も大変勉強になりました。特に先生方とのお話は、現在も学級経営や学習指導・生徒指導の面で参考にさせていただいています。

教員になりたい方はもちろん、これから教員になる上での不安を解消したい方は是非就職支援室へ行ってみてください。

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出

啓明寮での思い出

南那須支部　**薄井忠惠**

啓明寮は今の昭和小学校校庭の南端に有りました。

部屋は畳十五畳の４人部屋で、プライベートルームといったら押し入れの中でした。定期試験の期間は押し入れの中でよく勉強しました。

食事は、夕食に麦飯に苦手なとろろがよく出たが、おかげでとろろが好きになりました。朝食は、丼山盛りのご飯で、半分は弁当に詰め昼食に、学校の東側にあった平和食堂でコロッケやメンチカツ・味噌汁を購入し弁当を食べました。

風呂は銭湯で一日置き、冬期は頭髪を洗うと、寮に帰り着く頃には、凍ってしまいました。そして煎餅布団に潜って寝たのですが、よく風邪もひかずにいたのは、若さと充実した寮生活のお陰でしょうか？

若者同士の寮生活は、楽しい事もたくさん有りましたが、紙面の都合で書き切れませんでした。

「峰ヶ丘講堂」美術分野　吉崎 奈園

小林仁道先生の思い出

那須北支部　**平山悦子**

私は、平成３年３月に教育学部の理科専修を卒業しました。宇大での一番の思い出は生物科の教授だった小林仁道先生に出会ったことです。仁道先生は、とても料理が好きな方で、私たち学生によく食事を作ってくださいました。合宿でのお昼ごはんはもちろんのこと、研究室でもよく作って食べさせてくださいました。

しかし、私たちが卒業を間近に控えた３月に急性腎不全のため他界されてしまいました。亡くなる前の…確か12月だったと思います。「ちょっと入院してくるからちゃんと卒業実験やっておくんだぞ。」と言って入院されたのを今でも思い出します。卒業実験なんかほったらかしで遊び呆けていた私たちがすごく心配だったのでしょう。お見舞いに行っても「卒業実験は…」と口にしていました。今でも仁道先生のことは大学時代の楽しく、そして悲しい思い出として残っています。

思い出の場所

野木支部　**大山瑞葵**

私は、宇都宮大学を卒業して２年が経ちました。今でも大学での充実した日々を鮮明に思い出します。教員になることを目指したことで出会えた友達や支えてくださった先生方は、かけがえのないものです。働く場所は違うけれど、研修で久しぶりに会った時は心が弾みます。一緒に頑張ったゼミ室や講義室、食べると心も満たされる学食等、様々なところに思い出が溢れています。

この先何年経ってもきっと、昨日のことのように思い出すのだろうと思います。時間があったからこそ学べたこと、経験できたことがたくさんありました。子どもたちに自分が学んできたことを伝え、子どもたちが目をキラキラ輝かせながら聞いている様子を見ると嬉しくなります。何年後かに私たちと同じ場所で、また戻りたいと思えるような大学生活を送る子がいたら嬉しいです。

卒論の思い出

都賀支部　**北條伊里子**

勉強よりもサークル活動にかける時間が多かった学生時代でした。それでも卒業論文は避けて通ることはできず、力を注ぎました。先生のアドバイスを参考に、服装に関する多くのアンケート（何人分だったのか不明ですが）をまとめ、考察。まだコンピュータが普及しておらず、集計にも時間ばかりかかり、焦る気持ちが募る毎日でした。休日も暖房のない教室で寒さに凍えながら友人と二人で遅くまでペンを走らせていました。

「終わった」という充実感はありましたが、中身は薄っぺらだったと思います。先生がその卒論の一部を科学雑誌「ニュートン」に載せてくれたのです。その記事に目を向けた人は少ないでしょう。でも私にはうれしい出来事でした。最後まで指導してくださった先生に感謝しています。

現場からの声

教職に就いている人、
教職以外で活躍している人の
メッセージ

つながり

下野支部　髙橋修一

宇都宮大学教育学部を卒業して教職について早30数年がたつが、大学とのつながりは今も感じている。

まず、研修の場でのつながりである。下野市は、「S（下野市）＆U（宇都宮大学）コラボ事業」という研修システムが構築されている。宇都宮大学の教授や附属小学校の教諭が、研究授業・授業研究会に参加し、専門的かつ違った視点からの指導・助言をしてくださる。また、恩師との関わりや、興味のある研修の開催等で、直接大学に赴くこともある。キャンパスや校舎に入ると、懐かしさと変化を感じる。

次に、人とのつながりである。現任校には、宇大出身の教員が1/3程度在籍し、たまに、大学時代の話で盛り上がる。しかし、最近は、宇大出身の初任者が少なく感じる。今後の栃木県の教育を支える教員が、本学から多く生まれることを期待してやまない。

特別支援に学ぶ

佐野支部　羽田野麻紀

特別支援学級担任になり、今年で７年目になる。特別支援に携わるようになり、心掛けるようになったことがある。「指示は短く簡単に」「大切なことは板書する」「はっきり、ゆっくり話す」等。中でも「感情的にならない」ということが、本当に難しい。感情的に話すと、相手からも感情的に返ってくる。感情に任せて言葉選びを間違うと、子どもの心が閉じてしまう。わかりやすい指示や、落ち着いた対応は、特別支援学級だけでなく、全ての子どもたちに必要なのである。

初任の頃の自分を振り返る。日々、子どもを注意し、口早に指示を出し、子どもも私も右往左往。「あの時はこうしておけばよかった。」と反省ばかりである。

現在の自分を見てみる。「次、頑張ろう。」と、子どもによく言う台詞を、自分にも言い聞かせている。未だ反省の毎日である。

大切にしていること

宇都宮支部　湯澤康介

外国語活動および外国語の授業において、常に大切にしていること。それは、子どもが英語を聞きたくなること、話したくなることです。日本語で済んでしまう内容をどう英語を使って惹き付けるかを考えています。そのために、私の話し方を見直したり、使う英語表現を精選したり、授業の流れが子どもの思考に合うよう組み合わせたり、活動内容に聞く・話す必然性を持てるようにしたりと考えなければならないことはたくさんあります。これらが子どもたちと合うと、子どもは私の話す英語に耳を傾け、知っている英語や学んでいる英語を話し始め、そして、私や友達と伝え合うおもしろさを実感することができます。

英語という外国語を通して、コミュニケーションを図ることの素晴らしさを少しでも子どもたちに感じられるようにこれからも実践していきます。

つながり

今市支部　若月一彦

乗客の皆がそろって端末の画面を注視する姿。公共交通機関を利用する度に目にする光景である。情報通信技術の加速度的な進歩により人はSNSでつながり、情報の多くが瞬時に手に入る時代となった。私が学生だった昭和の時代と比較して、とても便利な世の中になったのだとは思うが、車内には、「無関心」があふれているようにも感じる。

学校現場においても、これからの社会を創り出していく子どもたちに必要な資質や能力を育むためには、やはり「人とのつながり」が欠かせない。特に、「フェイス・トゥ・フェイス」でのつながりを重視したい。顔を合わせることで相手の心情を推し量ることができる。その上で、互いの思いを伝え合う。そんな関係を構築し、周囲の人たちとつながり合える人づくりを推進することが学校の大きな役割であると思う。

「水面に世界を映す７号館前の池」美術分野　中 玲蘭

今に

燃やせ情熱

栃木支部　大塚幸一
昭和47年度卒

「燃やせ情熱」これが、新採赴任当時の若き小生の気合いだった。

今もいささかも衰えはしない。と言いたいところだがそうはいかない現実がある。古希七十になった。その体力的な衰えは、日増しに加速度的であるから…。

周囲では、多くの仲間が姿を消してきている。新聞のお悔み欄が嫌でも目に入る。いつかは自分の番。と、わかってはいるのだが、そうはいってもまだまだ若い者には負けない。と、奮い立つこともある。

現在、地域のサポーターとして学習支援の一端を担っている。が、子どもたちの方から若さと勇気をもらっているというのが正しい見方だろう。これは幸せなことだ。いつまでできるかは未知数ながら…。

一方で、若い先生方にどうも覇気が足りない気がするのは、気のせいか？　ハチャメチャをやれとは言わないが、どこか熱量が不足気味に映る？　自分が若い頃はと、過去を振り返って己の姿を偶像視するのは加齢のなせる技か。

が、しかし「燃やせ情熱」は普遍の真理だ！と、今以って疑うことはない。

それが、今を生きている証であるから…。

マイ・ジェネレーション

藤岡支部　矢口　稔
昭和50年度卒

昭和47年春宇都宮大学に入学した。その年から授業料が前年度の３倍になった。入学前、人間の思考回路を形成する思春期に五感を震わせた事件を記憶の順に示すと、「東大安田講堂事件」「三島由紀夫割腹自殺」「浅間山荘立てこもり」「よど号ハイジャック」「連合赤軍リンチ殺人」そして、入学した大学は９月から無期限ストに入り、授業はすべて休講になった。

昭和51年春何とか卒業し、新採教員として赴任した学校は改築中で完成するまで宿直を経験した。時代か？　給料が格段によくなり将来に明るい展望が持てた。しかし、学校は校内暴力が吹き荒れていた。落ち着くと不登校やひきこもり、いじめや自殺といった問題が次々と起こった。その上、当時の文部省や教師の不祥事が追い打ちをかけた。そしてクレーマー、多くの先生がその対応に追われ、今も続いている…。

平成26年３月31日定年退職した。今は「生きることが仕事」と割り切って、最前線の先生方に思いを寄せエールを送りながら、天気の良い日は畑に行ったり散歩をしたり、雨の時はロッキングチェアに揺られ景色を眺めている。そして、少しのボランティアとゴルフも。

継続は楽しみなり

小山支部　森下　尚
昭和50年度卒

退職後、20代に親しんだチェロを埃の被ったケースから取り出し練習を始めた。自己流ではやはり厳しいと感じ、親子ほど離れている30代チェリストに師事している。初めてのレッスン時に小品を練習して臨んだところ「次回からは、バッハの組曲１番をやってみましょう」とおっしゃる。あこがれの曲でもありＣＤで聴くことはあっても演奏するということは考えたこともないので正直面食らった。「初心者でも何とか弾けるのでやってみましょう」と。そうは言っても30年のブランクはいかんともしがたい。一応楽譜は読める（？）が、指は硬い。首、肩は凝る。腕も痛くなり、視力も落ちて細かい楽譜を見るのにハズキルーペが欠かせない。自己流の癖を修正するのは大変なことだ。それでもレッスンを受けるうちに、チェロ以外にも音楽の素晴らしさを教えていただくことのありがたさと楽しさを感じ始めてきている。

習い始めて４年。少しは名の知れた曲にも挑戦できるようになってきてはいるが、基礎基本の大切さを改めて痛感しているこの頃でもある。「継続は楽しみなり」を信じてチェロと音楽に付き合っていきたいと思う。

「談論」美術分野　増淵 のり佳

生きる

退職し、第二の人生を
歩んでいる人のエッセイ

人づくりに定年はない

大平支部　山本　豊
昭和32年度卒

宇都宮大学学芸学部で教育学を専攻し、昭和32年（1957年）に卒業した山本豊です。現在一般社団法人全国教育問題協議会の常務理事として会員の声を集約して教育施策に反映すべく昭和、平成、令和時代の42年間、全国の教員、民間人と共に取り組んできました。

その間、違法な教職員組合活動の阻止、給特法・人確法の制定、道徳教育の教科化など教育課程の改善、学校５日制の実現、教職員定数改善、国旗・国歌法の制定、10か年をかけて実現した教育基本法の制定などろうそくのように自らの炎で自らのろうを溶かしながらこのテーマにぴったりの「今にいきて」います。今日まで美しい日本人づくりに取り組むことが出来たのはひとえに全国の同志・宇大卒業の友人のお蔭であり、まさに感謝のひとことにつきます。

最近の文科省の調査ににによるといま学校では40万件のいじめ、不登校生20万人、校内暴力６万人、ストレスで病休教職員５千人、虐待される児童７万人といった教育荒廃の現実が明らかにされました。さらに教員希望者の減少、少子化時代の教員養成が抱える問題の解決に向け微力ですが取り組む所存です。

三七（みなび）美会展

壬生支部　江面キヨ
昭和37年度卒

「俺たち、昔描いたり作ったりしたのだから、飲み会だけでなく展示会をやってみようではないか。」

古希を記念しての懇親会の席上での発案により、第１回三七美会展が、平成24年に開催された。三七美とは、昭和37年３月卒業の美術専攻生ということです。会場は、栃木県総合文化センター（今年は、改修中のため例外）。飾る壁面は、毎年交代。センターにはその年の案内状の作品写真掲載者。作品は30号までの大きさで５点以内。表現内容材料は自由。毎年開く。

８回目を迎えた今年（誕生日が来ると80歳に突入）、出品できない人が何人か出て来たが協議の結果、10回までは開催しようということになった。この会があるので作品を作ろうという気力と、楽しみが出るというのである。

学生時代は、体育館通いばかりで、美術研究室にはほとんど行かなかった私は、三七美会展に出品しても皆と肩を並べられるように、月に２度日曜油絵教室に宇都宮まで電車で通っている。これが結構楽しい。

また、元気な体を保つために、週に１回、さわやか健康体操に行き、体と頭をほぐしている。

“段取り八分”の気組み

南河内支部　中澤清八
昭和54年度卒

“遠霞に　若人ら集い来る峰が丘”　本学を卒業して40年が経とうとしている。現在、非常勤嘱託員として栃木県子ども総合科学館に籍を置いている。「ミニ工作」を主務とし、同僚の協力を得ながら、年８回の企画・運営に当たっている。ミニ工作では、15分程度で制作できる内容で、毎回200名以上の材料を準備している。だから、効率よく準備をし、当日は参加者がスムーズに制作できるように、段取りを練っておくことが何より重要となってくる。

“段取り八分の仕事二分”とは、特に職人の世界で言われてきた言葉で、「仕事というものは、段取り、要は準備を如何に効率的にやるかに成否の８割はかかっている。当日の仕事の出来が影響するのは２割に過ぎない」といった意味である。教師になりたての頃、先輩方から「何事準備が一番」と、よく言われたものだが、改めてこうした気構えを自分に言い聞かせながら、苦心惨憺する毎日である。

昨年度、科学館主催の科学フェスティバルにおいて、本学の学生たちとともに活動する機会に恵まれた。真摯に活躍する後輩たちの姿が見られたことは幸いだった。

「ありがたいや」美術分野　大島 歩実

大学生活奮闘中

教育学部の今
がんばっている人の言葉

学問と学生

前 学芸系 技術分野教授
宇都宮大学非常勤講師
戸田 富士夫

大学教職員に携わって約40年になります。埼玉大学で約20年、宇都宮大学で約20年間、大学生の兄貴分として、助手として教官として人生の半分を大学生と接してきました。今、考えると身の回りの技術はかなり進歩しましたが、私にとってこの40年間は挫折と感動のみの人生でした。中高大生の頃から機械一筋で物を作ることが大好きな学生であったため、大学教員になってからも機械に携わり、スターリングエンジンがライフワークとなりました。当然のことながら40年前の大学生と現代の大学生とはかなり違ってきています。数学者 - 岡清いわく、“今の学生に目につくことは非常におごり高ぶっている。もう少し頭を低くしなければ人の言うことはわからない。謙虚じゃなければ自分より高い水準のものは決してわからない。せいぜい同じ水準かそれ以下の事しかわからない。これは教育の根本原理の一つである。”さらにカール・ヴィルヘルム・フォン・フンボル理念では“教師は学生のためにそこに居るのではなく、教師も学生も、学問のためにそこに居るのである。”変化の激しい現代の大学生は「いかに大学で何を知るかを考えること」に転換してほしい。

愛用のモペットバイク（原動機付自転車）を下記に示します。乗りたい方はご連絡ください。感動しますよΣ（・□・；）。

モペットバイク

自分が作る大学生活

教育学部 人文社会系社会分野
中田 美沙季

大学生活を振り返ると、選択の連続であったと思う。入学以前は敷かれたレールをいかに外れずに進むか、そこが重要であったと思う。しかし大学生になると生活の仕方も進路も全て自分が決める。教育学部として決められた単位を取らなければならないのは大前提だが、大学生活の大部分、自分の選択次第である。どのサークルに入るか、どこでアルバイトをするか、何を学ぶか、どんな進路をとるか、全て自分で決める。高校生まで選択を他人任せにしていた私には一つ一つの選択がとても大きなものに見えた。結果、今、自分の選択にとても満足している。自分のやりたいと思っていたことを、全てやりきれたと思うからだ。勇気を持って一歩踏み出し、選択することで自分の人生を変えることができる。自分にとっての最善の選択をし、よりよい社会人として一歩踏み出していきたい。

思いを引き継ぐ

大学院 地域創生科学研究科
社会デザイン科学専攻
沼尾 あかね

私が宇都宮大学で特別支援教育を学ぶきっかけを作ってくれたのは、私が小学生だったころの宇都宮大学特別支援教育専攻の先輩方であった。当時私は、学生が立ち上げた「きょうだい会 SHAMS（しぇいむず）」の活動に参加していた。この団体は障害のある子どものきょうだいを対象としたものである。私は発達障害の兄がいることで感じていた悩みを共有したり、普段は兄優先で行けない場所に行ったりすることで、心の安定を図り、様々な体験をした。

私とSHAMSが出会ってから10年以上たった現在はボランティアとして参加している。先輩方と同じように特別支援教育を学び、障害のある子どもたちと関わっていくと、それまでとは違った視点で活動することができた。大学院生となったこれからも、新たな学びを活かして悩みを抱える子どもたちと関わっていきたい。

宇都宮大学教育学部同窓会について

宇都宮大学教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。令和元年度で143年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で、活躍されています。

同窓会では、ねらいを「会員相互の親睦と資質の向上を図り、母校の発展に寄与する」としています。

活動内容は下記の通りです。

母校である宇都宮大学への協力

- ●宇都宮大学基金への協力
- ●新入生歓迎会への協力
- ●学生へ記念品の贈呈
- ●就職対策セミナー（教員・公務員・企業等）への支援
- ●就職支援室への協力
- ●災害時における対応（見舞金）
- ●施設の新設・改修への協力
  - ・学生のサークル活動施設の新設（コスモス）（H17年度）
  - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（H18年度）
  - ・宇都宮大学旧講堂の改修（H19～22年度）
  - ・教育学部音楽棟の改修（H25～27年度）

同窓会員の親睦

- ●総会（県・各支部）・懇親会の開催
- ●役員会・理事会等の会議の開催
- ●現職会員と終身会員との話し合い・交流
- ●会報（年１回）の配布
- ●会員の慶弔に関する事業

新入生歓迎会

平成31年４月８日（火）に、新入生ガイダンス後に、教育学部の中で一番大きい階段教室で行われました。

▶新入生歓迎会の立て看板

◀上級生からの一言

▲混声合唱団の演奏

★プログラム（日程）

1．開会のことば
2．同窓会長挨拶
3．教育学部長挨拶
4．同窓会役員紹介
5．同窓会員の先生紹介
6．乾杯
7．懇親会
8．上級生から一言
　保健体育分野４年
　山辺和輝・新田愛伽
9．宇都宮大学混声合唱団の演奏
10．同窓会事務局からのお知らせ
11．閉会のことば

就 職 支 援

教育学部の学生が、資質豊かな教員になるために、支援をしています。

- ●集団面接担当　　大野 薫・高梨敏朗
- ●論作文担当（論作文の添削も含む）
  柴田悦子・今野綾子・長嶋憲介・綱川芳孝・木村のり子・柏崎純一・粂川佳寿子
- ●就職支援室指導員（就職に関する全般の指導を行っています／月～金）
  大沢智恵子・渡邊昌子

●令和元年度に終身会員になられた方

【宇都宮支部】小池正巳・菊地耕志・大島理香・小野富美子・寺内照子・木村寛之・篠原朱美・石井滝男
黒川悦夫・池田啓子
【芳 賀 支 部】矢口源一・水沼久美子・小倉伸一・三田　進・小森祥一
【栃 木 支 部】島田隆広
【佐 野 支 部】飯田　誠・久村美智代・霜田　貢・大脇孝史
【那須北支部】伴真貴子・鈴木春美・尾畑　宏・渡部康子・福崎政弘・阿久津清美

叙勲受章者への賀詞贈呈　おめでとうございます

◎秋の叙勲　髙田榮順 様　◎春の叙勲　寺岡　篤 様　赤堀明弘 様
◎高齢者叙勲　市川一郎 様　小林丈男 様　吉田　武 様　吉成和子 様　手塚　守 様　小貫敏尾 様
古内　淳 様　岩田幸治 様　小堀弘造 様　飯田真二 様　林　敏夫 様　亀田　充 様
君島利一 様　関　清 様　髙野久好 様　福田常男 様　志賀省仁 様　杉井　規 様（ご逝去）

退任者への感謝状贈呈　お世話になりました

小林哲夫 様（副会長）　黒川悦夫 様（副会長）　大栗由紀 様（副会長・都賀支部長）
徳永幸子 様（監事）　髙島利佳子 様（監事）　渡邉範子 様（河内北支部長）
人見佳代子 様（南河内支部長）　鈴木久雄 様（西方支部長）　古沢誠一 様（国分寺支部長）
室井孝之 様（野木支部長）　熊倉正巳 様（岩舟支部長）　坂本三郎 様（足利支部長）

増渕会長の挨拶

叙勲受章者への賀詞贈呈

講話をなさった先生

和やかな懇親会

令和元年度同窓会役員・相談役・支部長名簿

【役員】
- ●客　員：石田朋靖・黒後　洋
- ●顧　問：岡田　忠・柴田　毅・松本展壽
- ●会　長：増渕茂泰
- ●副会長：橋本和英・北條伊里子・薄井忠恵
  高梨敏朗・竹井　誠・堀田由美子
  大越浩子・井口桂一・酒井功夫
- ●監　事：大沢智恵子・徳田洋子
- ●事務局：阿久津嘉子・髙尾亮子・薄井桂子

【相談役】
小宮秀明・酒井一博・人見久城・川島芳昭
新井恵美・田村岳充

【支部長】

宇都宮	増渕茂泰	河内北	大谷恵子
上三川	佐藤秀彦	南河内	杉山　薫
西　方	田中宏太郎	今　市	阿美浩二
藤　原	堀川照子	日　光	高田雄康
芳　賀	生井孝雄	都　賀	北條伊里子
壬　生	北見　修	石　橋	倉澤健一
国分寺	髙橋修一	大　平	山田恒夫
野　木	大山瑞葵	藤　岡	山本広紀
岩　舟	関口利美	小　山	森下　尚
栃　木	中山　観	佐　野	茂木郁夫
足　利	鈴木一弘	塩　谷	渡邊和洋
那須北	豊田　充	南那須	薄井忠恵

講話「教員の職能形成に資する大学の教員養成カリキュラムの実証的研究」中間発表

講師　教育学部准教授　小原一馬先生・教育学部准教授　丸山剛史先生

「教員としての力を身につけるのに、大学で、どのような学び方が有効なのか、どのようなカリキュラムが望ましいのか」を明らかにしたいと思い、上記の研究に取り組んでいる。

調査方法はアンケートとし、対象は宇都宮大学教育学部（及び前身の学芸学部）卒業生で、栃木県内の現職教員及び退職者（同窓会員・宇都宮支部）である。アンケートは2,781人中、約730人から回答があり、現在整理・分析中である。選択肢の回答に関してはおおよそ集計を終えた。

この結果から分かったことのいくつかは、次のとおりである。

しっかりと教える技術を持って児童生徒や保護者と向かい合える教員になる上で、最初の10年において効果的なのは、趣味・人間関係を広げたり教採対策などに取り組んだりすることである。ただし教採対策がそのまま役に立っているというよりは、直接役に立つことを学ぼうという積極的な姿勢とつながったり、教採対策をともに学んだ仲間を通して、人間関係が育まれていったりといったことが関係しているようだ。

最初の10年を過ぎてから、じわじわと効いてくるのは自発的に学ぶ姿勢である。例えば、知識を身につけるより考え方を学ぼうと意識していたり、学んだことをどう応用できるか意識して学ぶ姿勢を持って大学で学んでいたりした人は、教員になってからもずっと学び続ける傾向がある。その結果、40代～ 50代で教師として最も高い能力を身につけていくことができることがわかった。

また大学の教員養成カリキュラムが教員としての力量を形成する上で役に立ったと思っている人は、1966年以前入学者に多く、1996年から2000年入学者で最低になり、その後再び上昇している。特に2000年以降、教職科目や教育実習の評価が急速に改善していた。このことから近年の大学のカリキュラム改革は一定の成果を上げていることがわかった。

また調査実施の基礎作業として、過去の教育学部（及び前身の学芸学部）カリキュラムを調べる中で、ごく最近まで学級経営に関する授業科目が設けられていなかったこともわかった。

今後、アンケートで特徴ある回答した方に面接調査を行い、望ましいカリキュラムを提示したい。

第5回 ホームカミングデー 実施

日　時　令和元年11月23日（土・祝）13：00～（12：30　受付開始）
場　所　宇都宮大学教育学部７号館１階 ほか　※創立70周年記念イベント同時開催
内　容　12：30～　受付
13：00～　教育学部長、同窓会長挨拶
13：10～　懇親会（立食パーティー）
14：30～　教育学部の現状、同窓会の事業報告
14：45～　記念撮影
15：00～16：00　ミニコンサート
15：00～16：00　プレゼンテーション（黒後洋教授、伊東明彦教授）
※ミニコンサートとプレゼンテーションは同時開催・出入り自由

★プレゼンテーションでお話してくださる先生方の紹介

黒後 洋 教授
専門分野
体育学
主な授業科目
基盤：スポーツと健康
学部：スポーツ文化論、バレーボール

伊東明彦 教授
専門分野
理科教育学、地球物理学
主な授業科目
基盤：地震の科学と地震防災
学部：初等理科教育法、中等理科教育法、理科教材実験法Ａ

★教育学部の先生方の出席予定者

人間発達系	学校教育分野	准教授	上原秀一 先生
人文社会系	英語分野	教授	天沼　実 先生
人文社会系	英語分野	准教授	山野有紀 先生
自然科学系	数学分野	教授	酒井一博 先生
自然科学系	理科分野	教授	伊東明彦 先生
学芸系	音楽分野	教授	木下大輔 先生
学芸系	音楽分野	准教授	新井恵美 先生
学芸系	保健体育分野	教授	黒後　洋 先生
学芸系	家庭分野	教授	赤塚朋子 先生
教職大学院	教育実践　高度化専攻	教授	人見久城 先生

前回のホームカミングデー

懐かしい大学歌をうたう

和やかに歓談

資 料 配 布

第５回ホームカミングデー開催案内と70周年記念事業チラシ及び３Ｃ基金に関する資料を同封しました。
ぜひご覧ください。

編 集 後 記

今回、宇都宮大学における英語教育について特集しました。ますます進むグローバル化において「英語」は重要なスキルです。英語を指導する小学校教員の英語力向上に大きな期待が寄せられています。海外研修も含めて、宇大の学生に蒔かれた英語教育の種が大きく実を結ぶこと期待しています。

「大学生活奮闘中」は、新しく入れました。大学でのがんばりが読み取れます。これからも大学の先生と学生の寄稿をお願いする予定です。ご期待ください。

大変お忙しい中、ご寄稿いただいた皆様に感謝いたします。

【編集委員】大越浩子・小林純子・徳永幸子・高尾亮子・阿久津嘉子